校長室より　　第６９号

「天空高き」

平成２７年３月９日

卒業生に送る言葉ー卒業式にてー

　グラウンド横の桜のつぼみが日に日に大きくなっています。今日は生憎の空模様ですが、今年も春の気配が確実に感じられる今日、ただいま六年制普通科５０名、普通科１５９名の生徒諸君に卒業証書を手渡しました。

　３年生の皆さん、卒業おめでとう。心からお祝いを申し上げます。

　そして、この佳き日にあたり、多数のご来賓のご臨席と保護者各位のご列席のもと、ここに高水高等学校・普通科６７回、六年制普通科５０回の卒業証書授与式が挙行できますこと、誠に喜びに耐えません。

　ところで、皆さん。皆さんの目を外に向けてください。

　今世界では至る所で紛争やテロが勃発しています。また、エネルギー、環境破壊や貧困など、地球的規模の問題を多く抱えています。これらの問題に共通していることは、一体何でしょうか。

　そこには、すべて人間が深く関わっており、その原因は人間のエゴにあるということです。

　また、日常で起こっている悲しい出来事、我々自身の些細な悩みや苦しみも、やはり人が大きく関与しています。

　地球的規模のいろいろな問題も我々が毎日の生活の中で抱えている様々な問題も、すべて人が関係しています。問題の原因が人にあるということは、その解決方法も人にあります。

　その第一歩として、我々はもっと視野を広げることが必要です。視野を広げるためには、我々は三つの目を持つことが大事です。

　一つの目は「鳥の目」です。皆さんには夢や目標があると思います。しかし毎日の生活の中で時に悩んだり迷ったりすることがあります。その時には鳥のように高い位置から自分の立ち位置を客観的に把握することが大事です。

　二つの目は「虫の目」です。虫は地面に面した場所にいるからこそ、上から見て気づかなかったことが見えて来きます。毎日の生活では地を這う虫のように「狭く深く」

「うまくいかなければ、またその時考えればいいさ。とにかく一歩踏み出す、歩きながら考える。それしかないよ。　　元全国盲ろう者協会事務局長　塩谷　治

を心掛けることが大切です。
　三つの目は、「魚（さかな）の目です」。魚は目には見えない水の流れを体全体で感じ取っています。今自分が、どの方向に向かっているのかを、感じ取ることが重要です。
　我々は、この三つの目、鳥の目、虫の目、魚の目を持つことで、視野を広げることができます。地球的規模の問題から普段の生活の中で抱える問題まで、解決の糸口を見つけることができます。
　更に我々はこの三つの目で、「考え方や生き方」を変えることができます。一見、遠回りで非現実的なことのように思えるかもしれませんが、我々人間によって引き起こされた様々な問題を解決する方法は、三つの目を持って我々の「考え方や生き方」を変えることです。
　皆さんはこの高水学園で、毎日の授業で、運動会や楽学祭で、生徒会活動やそれぞれ所属する部活動で、一生懸命に取り組んでくれました。素晴らしい結果を収めた人もいれば残念な結果に終わった人もいるでしょう。しかし結果はどうであれ、皆さんは全力で取り組んでくれました。その過程こそが尊いことです。その努力の過程の中で皆さんは自然に三つの目、「鳥と虫と魚の目」が育まれ、健全な「考え方や生き方」が培われてきました。高水学園で六年間または三年間、切磋琢磨してきたことを誇りに、自信を持って、新しい世界への第一歩を踏み出してください。
　保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。六年間、あるいは三年間、日々成長していくお子様の姿を見続け、今日、このようにして無事に卒業という「晴れの日」を迎えられたこと、お慶びの程は如何（いか）ばかりかと存じ上げます。そして今日（こんにち）まで、本校の教育活動に寄せられました、皆様の深いご理解とご支援に対し、厚くお礼申し上げます。
　終わりになりましたが、２０９名の卒業生の皆さん、今日がゴールでそして新たなスタートです。昨年、三人の日本人科学者が青色ＬＥＤでノーベル物理学賞を受賞しました。その光は皆さんのこれからの二十一世紀を明るく照らしてくれます。皆さんひとり一人が力強く旅立ち、その前途に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

新たなるスタート－主役は君たちだ－

　今年の卒業授与式は、各クラス担任の呼名後にクラス代表に卒業証書を手渡しました。ステージの上から呼名される卒業生、一人ひとりの様子を見ていました。
　目をつむって名前を呼ばれるのを静かに待っている者、名前を呼ばれたらはずかしそうにはにかみながら隣のクラスメイトと顔を見合わせる者など、三者三様でした。３年間または６年間の思い出が走馬灯のように一人ひとりの脳裏に浮かんできたことでしょう。

主役は３年生でしたが、在校生諸君も寒い体育館の中で、緊張感を持って臨んでくれました。運動会や楽学祭等で、皆さん一人ひとりが主体的に、自主的に取り組んでくれたことの成果がここに見事に発揮されました。

“One for All , All for One” 皆さん一人ひとりがみんなのために、皆さんの卒業式を大いに盛り上げてくれました。

在校生の皆さん、今度は皆さんが主役です。

親父の弁当

・・・樋口さん（樋口清之教授・国学院大学）の友人で、よく貧乏に耐えて勉学にひたむきに努める人がいた。

その友人が勉学に励んだ動機は「おやじの弁当」だという。

彼はある日、母の作る父の弁当を間違えて持って行ってしまった。彼曰（いわ）く、「おやじの弁当は軽く、俺の弁当は重かった。

おやじの弁当箱はご飯が半分で、自分のにはいっぱい入っており、おやじの弁当のおかずは味噌がご飯の上に載せてあっただけなのに、自分のにはメザシが入っていたことを、間違えて初めて知った。

父子の弁当の内容を一番よく知っている両親は一切黙して語らず。肉体労働をしている親が子供の分量の半分でおかずのない弁当を持ってゆく。

これを知った瞬間、『子を思う親の真（愛）情』が分かり、胸つまり、涙あふれ、その弁当すら食べられなかった。

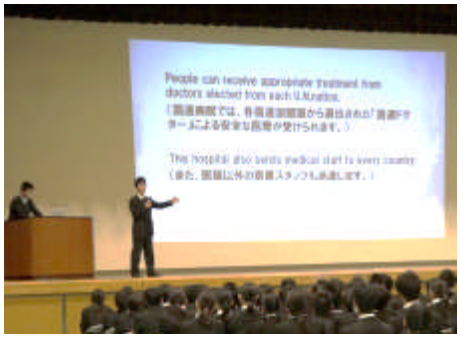
その感動の涙が勉学の決意になり、涙しながら両親の期待を裏切るまいと心に誓った」という。

『致知』2009 年 1 月号アサヒビール名誉顧問中條高徳氏より

私事になりますが、７年前、他界した私の父は、典型的な「黙して語らない人」でした。親として子供に対して多くを語らず、何を考えているのかよくわからないと思うこともありました。しかし、亡くなってからわかったことは、家族のことを本当に大切にし、言葉では伝わらない深い愛情を持っていたということでした。自己主張をすることなく、淡々と自分のやるべきことをやり、親として家族としての責任を果たし、この世を去りました。

前号の母から娘へ「嫌がらせ弁当」とは全く趣は異なりますが、親が子を思う深い愛情は今も昔も不変ですね。

中六合同発表会ー伝える力ー



私は開会式の冒頭で、「現在地球上で発生している環境問題、エネルギー、貧困やテロなどの問題の原因は人間のエゴにあり、その根本的な解決策は、我々人類が考え方や生き方を変えるしかない」そして、「この合同発表会の中に、その問題点を解決する糸口がある。それを自分の耳と目と心で感じ取ってもらいたい」という主旨の話をしました。

私は皆さんの発表を聞きながら確かに解決策のヒントをもらいました。

皆さんには、これからの時代は、知識・技能とともに、変化に対応して自ら課題を設定し、答えのない問題に解を見い出し、他者と協調するなどしつつ、実行、実現していくことのできる力などが特に求められています。

今日の発表会、そして今日までの過程の中に、変化に対応する力、自ら問題や課題を見つける力、そしてその問題や課題を解決するための多角的な視点等が、着実に育まれていることを確信し、皆さんが実に頼もしく見えました。

今回で第 3 回を終えた中六発表会。本学園の建学の精神である楽学スピリッツが、確実に皆さんの心身に脈々と受け継がれていることに、深い感動と誇りを覚えました。

二十四節気　『啓蟄』（けいちつ） 3 月 6 日頃

「啓」は、「ひらく」という意味。「蟄」は、虫などが冬眠するという意味で、「啓蟄」は、冬ごもりをしていた虫などが暖かさに誘われて地上へ這い出してくることを表しています。

しかし、実際に虫が活動を始めるのは、1 日の気温が 10 度以上になってからで、例えば福島県内では 4 月中旬頃です。2 月 19 日頃　雪は雨となり、氷も溶けて水となる時季です。雨水がぬるみ、草木も芽を出し始め、農家では、農耕の準備を始める目安となります。

【出典：ちょっと便利帳】